

文系・理系どっちが得か／小沢新党悩ます「女」と「カネ」

AERA

昭和63年6月10日第3種郵便物認可 2012年7月9日発行
毎週月曜日に発行（7月2日発売） 通巻1349号

「新型うつ」にしない子育て

'12.7.9

No.29定価380円

アエラ

プロサッカー選手 香川真司

株式会社大島産業グループ 代表取締役CEO

Yasutomo Oshima 大島 康朋

父の病気のため、若干19歳で経営の世界に飛び込んだ大島康朋氏。経営のいろはを文字通り体得し、現在の柱事業となる物流事業を立ち上げた。その大島社長が、「最近の若者」のスキルを高く評価しているという。

一芸に秀でるより 応用力で勝負

大島産業はトラック運送を生業のひとつとしています。ドライバーに新しい配達先に向かつてもらうとき、通常は地図を渡し、宿泊が必要なときは会社が手配していました。細かい作業ですが、重なると結構な手間になります。

でも若いドライバーにはそれが必要ありません。行き先を伝えると、スマートフォンで効率のよいルートを検索し、最も安い宿をネットで探して泊まります。ITや携帯電話を使うという基礎を、相手のニーズに合わせて素早く応用する。素晴らしいスキルです。

一芸だけでは飯が食えない時代。
世の中は、若い方が発揮する「応用力」を求めています。

昔のビジネススマンには「芸に秀でる」ことが求められました。もちろん今も、ひとつのことを極める姿勢は大切ですが、「芸」だけでは飯が食えなくなりました。

例えば運送業界では、以前は事故を起こさないドライバーが「良いドライバー」でした。でも今やそれは当たり前で、荷物を丁寧に扱う、お客さんに笑顔で挨拶する、身だしなみも含めた総合力が求められるています。ドライビングスキルだけがなくても、平均点しかとれない時代になりました。

これは運送業界に限ったことではありません。例えば土木の現場では、職人はコンクリートのうち方に注力しますが、発注者である行政は現場の安全性も気にしています。職人は品質と同時に安全性にも気を配らねばなりません。長く業界にいる人ほどそれが出来ません。コンクリートをうつという基本は押さえながらも、ニーズに合わせて自身のスキルを展開する応用力が、生きる力になるのです。

「3年ひと昔」の時代 「ジョン」は示さない

では、私たちビジネススマンにとってベースとなるスキルとはなんでしょう。

私は高校卒業後、すぐに家業を継ぎました。高校生のとき甲子園に出場した

ため、大学でも野球を続けたかったのですが、当時社長だった父が病気になるため、家業と向き合うことに決めました。以降、キャッチボールもしていません。

父の時代、大島産業は建設事業を行っていましたが、代替わりして物流事業を創設したとき、モットーである「ガンバレル!!」というキャッチコピーをトラックに入れました。実は大島産業には、目標やビジョンはありません。「10年ひと昔」ではなく「いまや3年ひと昔」と言えるスピード社会だからこそ、先のことを語るより目の前の仕事にひたむきに頑張る姿勢が必要だと思っからです。

仕事の基本は、ここに
あると思います。私は甲子園で「負けたら終わり」だと学びました。甲子園では、何点差をつけて勝ち続けても「一度負けたらその先はありません。人生も同じで、焦って大きく勝つても、長くは続きません。背伸びをせず、目の前のことにひたむきに頑張る。負けない戦略が必要です。若い方の応用力を発揮することで、負けない人生を送って頂けたらと思います。

(談)

お問い合わせ

株式会社大島産業グループ ☎0940-33-1558(代)



Company Information

株式会社大島産業グループ

[本社] 〒811-4154 福岡県宗像市富地原1791-1

[電話] 0940-33-1558(代)

[URL] <http://www15.ocn.ne.jp/~ohshima/>

[創業] 1967年

[代表取締役CEO] 大島 康朋

[事業内容] 物流事業・建設事業